

## 週報

# 感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成 28年												平成 29年																			
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月 ~2日	7月 ~9日	7月 ~16日	7月 ~23日	7月 ~30日	8月 ~6日	8月 ~13日	8月 ~20日	8月 ~27日	9月 ~3日	9月 ~10日	9月 ~17日	9月 ~24日	10月 ~1日
カンピロバクター	72	56	111	153	116	189	214	150	101	118	66	84	61	68	80	122	83	118	24	26	45	20	27	18	17	24	28	22	18	33	25	42
病原性大腸菌	140	146	163	167	150	157	240	182	166	227	180	147	107	105	89	113	64	135	30	53	39	43	41	27	49	32	53	26	22	42	12	14
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	3	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1
サルモネラ	12	4	2	8	12	4	19	21	12	16	4	6	0	1	7	11	10	13	3	2	6	2	5	12	6	7	4	4	4	0	1	3
黄色ブドウ球菌 MSSA	23	20	25	14	19	32	14	24	23	27	8	15	6	11	12	15	9	21	7	6	6	4	9	2	5	4	6	3	2	14	4 (5)	6
黄色ブドウ球菌 MRSA	11	11	16	21	20	27	24	19	19	18	14	20	16	19	13	17	15	23	6	10	5	3	3	5	2	3	6	4	5	7	5 (6)	4
腸炎ヒブリオ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	1	0	3	3	1	9	10	9	4	2	2	0	2	1	3	0	5	0	0	0	5	4	3	2	1	5	1	2	1	1	1
ロタウイルス	4	19	29	24	29	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1	6	6	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	2	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
ノロウイルス	20	20	5	9	2	2	5	0	0	0	0	21	7	4	8	6	11	13	2	4	1	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	2

\* ( ) は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

\* その他の1件は、アエロモナスでした。

## 広島県感染症発生動向週報

平成29年第39週(9月25日~10月1日)

### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	11	結核	11	3	1	1	1	4	1	
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	10	日本紅斑熱	6			3				3
		レジオネラ症	4			1		3		
五類全数	2	梅毒	2	1				1		

注) 西部 … 大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
 西部東 … 竹原市、東広島市、大崎上島町  
 東部 … 三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
 北部 … 三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第39週 9/25～10/1)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. RSウイルス感染症

定点当たり2.63人と、例年同時期と比べて多い状況が続いています。年齢別では、1歳以下の報告数が全体の71.8%を占めています。

生後数カ月までの乳児が初感染した場合は、細気管支炎や肺炎などの重篤な症状を引き起こすことがあるため、感染を避けるための注意が必要です。引き続き、咳エチケットや手洗いの励行など感染予防対策を徹底しましょう。

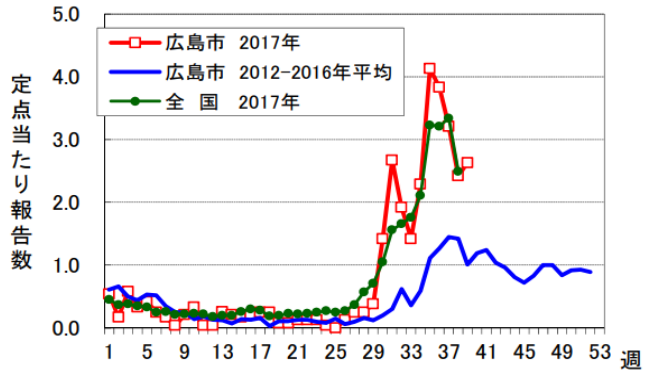
2. インフルエンザ

定点医療機関から18人(定点当たり0.49人、迅速診断キット:A型陽性17人、B型陽性1人)の報告がありました。流行前の予防接種、手洗いの励行や咳エチケットなど感染予防対策を心がけましょう。

3. レジオネラ症

3件の報告があり、今年の累計は19件となりました。

RSウイルス感染症の流行状況



【参考】厚生労働省「RSウイルス感染症Q&A」  
[http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs\\_qa.html](http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/rs_qa.html)

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	急増減		前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
														増減	微増減		
小児科	インフルエンザ	18	0.49	0.06		↑	小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.71			↑	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減	
	咽頭結膜熱	9	0.38	0.27				RSウイルス感染症	63	2.63	1.01	→		→	→	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	44	1.83	1.15		↔	眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03					前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	
	感染性胃腸炎	90	3.75	3.85		↔		流行性角結膜炎	4	0.50	1.18					ほとんど増減なし	
	水痘	9	0.38	0.51			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	0.03						
	手足口病	43	1.79	1.25		↔		無菌性髄膜炎	-	-	0.09						
	伝染性紅斑	-	-	0.17				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.40						
	突発性発しん	6	0.25	0.44				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-						
	百日咳	-	-	0.08				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-						
	ヘルパンギーナ	7	0.29	0.29													

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	107	女性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、女性(70歳代)・1人、女性(80歳代)・1人
4	レジオネラ症	3	19	男性(60歳代)・1人、男性(60歳代)・市外・1人、男性(70歳代)・1人
5	梅毒	1	49	女性(50歳代)

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	熱性痲瘰	4	男	2017/08/20	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
無菌性髄膜炎	発熱(38.4) 髄膜炎 項部硬直	9	男	2017/08/09	髄液	Eコーウイルス9型
その他の消化器疾患	血便	0	男	2017/08/21	糞便	パレコウイルス4型
その他の疾患	発熱(38.8)	0	女	2017/08/15	糞便 鼻汁	Eコーウイルス25型

\* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載